「広島原爆」

長久手中学校　一年　水谷　有里

一九四五年、八月六日。何が起こったのか知っていますか。広島に原爆が投下された日です。その事について詳しく知るために、私たちは、広島に行ってきました。

原爆ドームを見た瞬間、正直おどろきました。ボロボロで、壁がはがれている姿。心が痛くなりました。資料館へ行くと、様々な展示物がありました。熱線によって焼けただれて、とてもつらそうにしている人形がありました。「どういう気持ちなんだろう。」ずっと頭の中で考えていました。

二日目、実際に被爆を経験した鳥越不二夫さんにお話を聞きに行きました。鳥越さんは、14才の時に経験したそうです。私と年齢がほぼ同じです。そんな時に、怖い思いをしたんだと思うと、心が苦しくなりました。しかし鳥越さんは、原爆は運命だったというのです。当り前に息ができる事が幸せ。命とは、鳥越

20 × 20

さんにとって宝物。平和とは、一人一人考えることが平和につながる。私は鳥越さんに色々教えられました。そのおかげで、一日一日の大切さ、ありがたみに気づく事ができました。鳥越さんありがとうございました。

一日に感謝して、これからも前向きに生きていこうと思います。

20 × 20